

森林をいかした

(生物資源)

町づくりに挑戦!

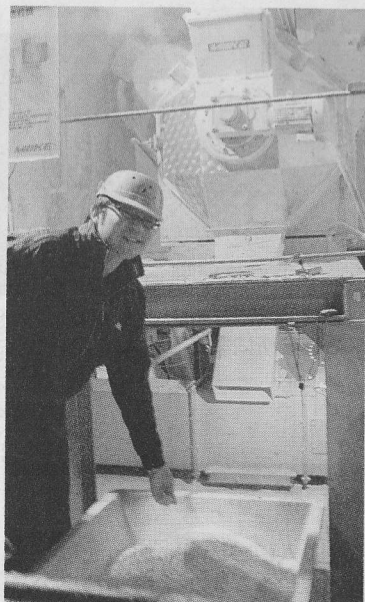
原発ゼロで日本再生へ

岡山県真庭市



3・11東日本大震災以降、地震国には危険な原発をゼロにとの世論が高まっています。日本の再生可能エネルギーの可能性は? 岡山・真庭(まにわ)市のバイオマスタウン(生物資源でまちづくり)の挑戦が注目をあびています。

銘建工業のペレットは副産物なので割安



岡山県初の女性杜氏のいる御前酒蔵元辻本店でもペレットストーブに。`燃料代が安くなり、炎が暖かい、と若おかみ



年間とおしてトマトをつくれるようになりました



お年よりから子どもまで楽しむ「水夢」



森林に囲まれた真庭市 木材市場

岡山駅から北へバスで1時間40分、旭川の向こう岸に見えた、屋根に大きな太陽光発電のある建物が真庭市役所でした。昨年4月に建ったばかりの新庁舎の正面には、合併した九つの町を象徴する九本の柱組に支えられた大きなヒノキの屋根のロータリー。庁舎にはヒノキの香りが漂っていました。庁内の使用電力の15%は太陽光発電でまかない、冷暖房は、市内の業者がつくるカンナ屑を固めた固形燃料(ペレット)と木材チップを使ったボイラーを使用、冷暖房費は灯油の4割だといいます。化石燃料と違い、使えば100%市内の経済発展につながり、使った分だけ「カーボンオフセット(CO₂の排出権とりひき制度)」で収入にもなります。

ペレットストーブの設置には費用の3分の1(上限13万円・100台普及)、商業用ボイラー設置には50万円の上限で補助金を出しています。トマト農家の清友健二さんも、ビニールハウスの中を暖めるのに商業用ボイラーを使うようになって燃料費はこれまでの4割になったといいます。「この辺りは最低気温が岡山市と4、5度違うから、化石燃料を使っているのではとても収入にはならないです。百姓が好きなので、いま僕自身はけっこう幸せ。人を雇って周りの人も幸せにしたいけどそこまではと苦笑いします。」

6年前にオープンした健康増進施設「水夢」の温水プールやお風呂、施設の空調もペレットボイラー、燃料費の削減率は50%です。

「一昨年の重油・灯油価格の高騰は、このスポーツジムも打撃でしたが、うちは助かりました」と、支配人の伊東和典さん。ここから日本選手権に出場する水泳選手もいます。

「デメリットといえば、ペレットの単価を安くあげるために自分たちで運ばなければいけないことかな。それも近いからいいですが」

ペレット製造ではいまや日本一の銘建工業がすぐ近くにあります。銘建工業はもともと集成材工場、製造の過程で出るカンナ屑を熱で固めてペレットに。副産物なので価格は割安、ヤニの出にくいホワイトペレットは灰が少ないと好評です。ここではまた、工場の電力をすべてバイオマス発電でまかなっています。市内の製材所で産業廃棄物として捨てられていた木の皮も利用することで、発電にカンナ屑を使わずに済み、夜間の余剰電力は売電するまでになっています。

〈2面につづく〉

森林をいかした町

1面
から

バイオマスツアーに参加した学生たち。天ぷら油で走るロンドンタクシーについて語る旅館協同組合代表理事の古林伸美さん(左)

そもそも真庭市がバイオマスに注目したのは、1993年に当時の地域の企業家や若いリーダーたちが始めた「21世紀真庭塾」という勉強会から。面積の8割を占める森林の価値を高めながら利用する道、地域と産業を考え旧勝山町の町並み再生をどうしていくかなど。市内で開催されたシンポジウムには地元の新婦人会員も参加しました。

「行政と一緒に勉強したしたのは2000年くらいから。京都議定書の具体化もありましたし、何より地域産業

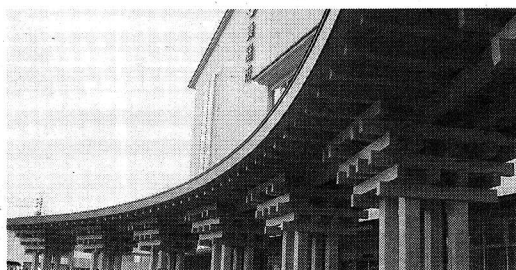
の4分の1を占める木材関連産業を活性化するために。山の木材の利用はもちろん、価値のなかったものの価値をどう高めていくか、市民、事業者、行政が役割を出し合い、できることをやってきたことが今につながっている」と、バイオマス政策課総括参事の長尾卓洋さん。

山に使われず残ったままの木材の収集・運搬のための補助金や、樹皮の活用・安定供給のための集積基地の建設、循環システムの確立、さらには小中高生への出前授業、体験学習など。新たな雇用が素材生産業者で30人(3年間)、森林組合や集積基地にもうま

れていきます。ユニークなのが真庭観光連盟主催のバイオマスツアーです。ツアーは女性でもって「女性でもっていいです」と責任者の真柴幸子さん。遠方から視察や勉強にくる人に、効率よく回り観光も楽しんでほしいと始まったツアー(市民は割引)は、募集を開始すると予約が殺到。半日コース、1日コース(宿泊割引)、ファミリー向け、一般観光募集などと発展し参加者は年2000人を超えます。

「3・11以後は、さらに問い合わせが殺到しています。私自身、生まれ育った地域のすばらしさを発信できることが楽しい。たい肥センターの若い職員が『仕事のことはいままで人に言いたくなかったけど、ツアーで来た人からすごい仕事をされているんですよ』と、ツアーをやったよかった。日本は森林の国ですから、真庭を見てどこにでもある資源の大事さに気づいてもらえたら」

自然を大事にするバイオマスタウンの真髄は、湯原温泉でも。質量豊かな温泉を守るためには森を大切に、オオサンショウウオやカシカガエルの生息する清流を守ろうと、川に流していた天ぷら油を集めて送迎車を走らせる旅館組合の取り組みも注目されています。



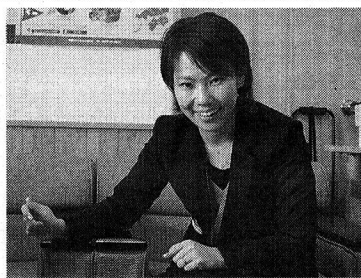
木の町を象徴する市役所のロータリー。巡回バスの発着所になっている

原発事故はおこるべくしておこった事故、原発はなくすしかないというのが最大の教訓です。

湯原温泉



「バイオマスツアーをやったよかった」と真柴さん



「バイオマスツアーをやったよかった」と真柴さん

「バイオマスツアーをやったよかった」と真柴さん

「バイオマスツアーをやったよかった」と真柴さん

「バイオマスツアーをやったよかった」と真柴さん

女性ニューズ

2012.1.26

阪神・淡路大震災17年

6434人の死者を出した阪神・淡路大

提出、公正な判決を要請した。新婦人も支援団体とともに、地裁前ではたらく女性の権利と空の安全を守ろうと、支援を訴えた。署名は1月末までに中

を受けた1人について、処分を取り消す判決を下した。橋下大阪市長率いる「大阪維新の会」による起立斉唱の義務づけと「厳罰化」に影響を与える可